明るい家庭づくりの育成部門を担当して（上）

横越下　加藤　守

下部落は一昨年から県の「明るい家庭づくり推進地区に指定されました。家庭を明るくするには……いろ〳〵思案のあげくずな、これこそ私達がめざす「PTA活動こそ何にも勝るものでなかったか。終了後父兄が手際よく作ってくれたボタ煮をごちそうになる。子どもも父兄もおかわりおかわりであるろう。食後のひとときも話題を聞いてみた。父兄は「親子ぐるみの活動がこんげに面白いとは、仕事ばかりが能じゃないけど、今後は出来る限り参加するぜね」子どもは「サイクリングが一番良かった、おにぎりがおいしかったです」

「海水浴がよかった、バスにのれ、一日中泳げてよかったです。」父兄参加の輪は遊興的なものばかりでない。子どもがもっと大きな遊び場が欲しい、と言えば農協第二団地の公園使用をお願いし、さっそく朝飯前にみんなで草取りをする。勿論、子どもたちも率先して自分達の広場を作るのだと意気込む。みんなで同じ目的に向って参加する喜びは一入である。

き、父兄の参加は四、五人であった。

一昨年の動労感謝の日に「親子スポーツ大会」を開催した。初回参加した人達が呼びかけてくれたため、参加者は友人と一〇〇名近いではないか、それも初めて面識する父兄の多いこと。

さっそく紅白に分れての熱戦の火ぶたが切られた。老いも若きも子供も一体となり、ゲームが展開される。これが親子のきずな、地域全体のきずなでなかったか。終了後父兄が手際よく作ってくれたボタ煮をごちそうになる。子どもも父兄もおかわりおかわりであるろう。食後のひとときも話題を聞いてみた。父兄は「親子ぐるみの活動がこんげに面白いとは、仕事ばかりが能じゃないけど、今後は出来る限り参加するぜね」子どもは「サイクリングが一番良かった、おにぎりがおいしかったです」

ようこそ〼 セツコさん

ブラジルから父のふるさとへ

父や母のふるさと日本、こゝで働く人達の生活にふれ、言葉や風俗習慣を身につけたいと、このほどブラジルからイラセヤ、セツコ、イチムラさん（二十四才）が当村にこられました。

現在、親類の市村二郎（横越中）さんの家で生活しています。

現地の大学・教育学部を卒業しているので英語（ブラジルはポルトガル語）が話せるので日常会話は英語、日本語でたいした支障もないようです。

週に三回位
午前中は曽我広見氏（元横中教諭）
と日本語の勉強

今迄の感想を聞いてみますと、みなさんが朝早くおきるのと又、道路が非常にせまいのでびっくりしている。又、きのう（四・二〇の突風）のような強い風は吹かないそうです。

食べものはなんでも食べられます。つけものも時々母が作るので、日本のつけものも苦にならないそうです。

学生時代はバスケットの選手で背もたかく、ジーンズに赤いシャツやネックレス、イヤリング等がとてもおにあいです。

半年ぐらい当村にいて、あと半年東京・静岡（母の故郷）等で生活し、帰ってからは現地で会社や牧場を経営する父の仕事を手伝い特に通訳などをやりたいと言っています。

結婚については、まだ早い、父が外国人をすかんと言っているので……と笑っておられました。

※　※　※

読書感想文

「紬の里」を読んで

小杉　大竹　ミヨ子

主人公、志保子の夫が高校の山岳部の生徒を引率して谷川岳にのぼり途中転落死亡した。知らせを受けた志保子は何故か動転もせず高階の前にいた。

高階秀俊は染色と織物の研究家で、美術大学で教鞭をとっていた。織物といっても研究の対象にしているのは紬と絣が殆どだった。彼が織物の本を書くために、産地である塩沢を訪れ、織物工業協同組合長に案内されて彼女の家へ来てからだった。それから毎年冬になると彼は塩沢を訪れたが、その存在が彼女の胸に一つの火を点じ四度目の冬に塩沢の宿に泊っている彼を訪ねた時結ばれた。高階は家庭的でない妻の性格に女としての美しさを感じる事が出来ず雪国で機を織る志保子を愛した。塩沢、東京と逢瀬を重ねる。雪国の女の一途な情熱をぶっつけてゆく志保子にとって二人の関係は次第にゆきさしならぬものになる。三十才の女ざかりは情熱にもえる。でも母や娘、そして機織りの仕事はやはり捨てるわけにはゆかない。

だが別居していた高階の妻がもどり、彼とよりをもどそうとしたためにそれを嫌った高階が家を出て湯沢に落着くようになると志保子の気持はかえって乱れ、苦悩が深くなる。しかも高階が芸妓の織江と知りあい、親しさが増すにつれて織江への嫉妬にも苦しめられるのだ。情熱だけでは埋めることの出来ない愛の亀裂が感じられる。高階は伝統的な美にひかれるのと同様な気持から、志保子や織江を愛してゆくのだが彼女達にとっては愛は生活そのものであり酬くさでもある。彼への愛が志保子にとって純粋であればあるだけ彼女の苦悩が深かまるのはむしろやむを得ないことなのかもしれない。

最後は志保子の心の炎を反映して、雪山が全山朱に染って見える心象でまとまっている。私はこの紬の里に、現実を超えた作者の美的形象をよむ思いでした。

しばらく前の朝日新聞に次のような記事をみた。「阿賀野川の河川敷にしげる雑木は洪水の時の障害になるから伏採しなければならないという河川管理側の意見が出た。それを知った横越の愛鳥家から、あれは多くの野鳥の棲息場所だから切らないでおいて呉れという嘆願が出た。

結局、その意見がいれられて雑木は助けられた」というのがその大要である

愛鳥家の皆さんが情報をキャッチして直ちに当局に意見を申し出られたこと、とかく硬直と思われる当局が意外に快らかい応対をされたこと。

まことに結構なはなしだ

うれしい話

司　順　星　海沢

物にどのような関係にあるのか、私に殆ど知識のないのが残念だが、それにも拘わらずあの記事は大変うれしかったのであえて一文を草した。

海外視察記⑤

不安であった民宿

藤山　田村　泰一

シドニーに於いて我々一行は国際的に有名なオペラハウス、ハーバーブリッジ等のある市内を見学し、それに、海の色がとっても美しくシドニーで一番と云われている「ボンダイビーチ」等のある海岸線へも足をのばしました。

この日は、幸い非常に良い天気に恵まれ、写真びよりでした。下車する度に写真を取りまくりました。海岸では海の色が青々としていました。それは白い砂浜に依って尚一層青くなっているのです。私達にとっては、スーツを着ていてもまだ寒いのにもう多数の人達が水着姿でいるのには内心驚いた次第です。

ところで、私達はこの旅行中貴重な経験を致しました。シドニーでの最後の二晩を一人一家という初めての「ホームスティ」を行ったのです。

シドニー郊外の公園で私達は各家庭の人達と落ち合い、そこでお互い紹介し合い引渡しが行われたのです。そして各々の家庭へ、出迎えの家族の人達が自家用車に乗せてもらって行きました。

私の宿泊した家庭は、父が仕事の関係上不在で母とその娘デビーの二人暮しでした。三人兄弟なのですが、すでに上の二人は結婚しており、居ませんでした。

私達が宿泊した家庭というのは、この地区のパブリックハイスクールの三年生の各家庭にお世話になったのです。だから、それぞれ生徒同志は顔見知りであったのです。

家に到着すると荷物を運び私は新潟で買って来たお土産を渡しました。そして、部屋に案内されると、夕食迄に時間の余裕があったので再び車でデビーの通っているハイスクールへ、案内してもらいました。

校舎は鉄筋のモダンな建物でしばしば見学に訪ずれるという事でした。

夕食は、一時間位い要して食べました。メニューは、私達にはもう食べ慣れたビーフステーキでした。食後は、私の持参した新潟県の絵はがきで色々話し合いました。

又、デビィが学校で日本語を習っているという事でテキストを見せてもらって、教えてやったりしました。彼女は物静かな子で私が、彼女の母に「いつもおとなしいのですか。」と聞くと「学校でも模範的でいつもこうです。」と答えてくれました。

こんな具合で第一日は、ハプニングもなく無事に終わりました。

親類宅では右から母、娘、左は宿泊した家庭

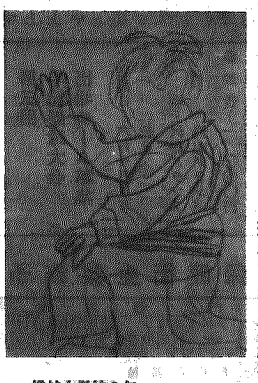
サロン

〈評〉

〝人間を書きなさい〟というと、たいてい、血のかよわない、骨のつかない、いわゆるお人形さんができあがります。この絵は、そういう人形じゃなく、心のある人間を書けるようにするために、女の子のモデルを見て、五分間で書いた（タロッキーという）ものです。片ひざついて踊っている所作をあらわしたものです。

作者のしたたかなデッサン力は二年生とは思えぬ観さを示しています。

（横越小　渡辺　龍教諭）



横越小学校2年
網山美佐子

公民館の休館日について

公民館では、今後夜間（午後六時から十時）の利用について次のように致しますのでご協力をお願い致します。

毎月十日、二十日、三十日（二月の場合、二十八日）を夜間だけ休館日とする

但し、公共機関等でやむをえない場合はこの限りでない。

ご不便をおかけしますがご了承下さい。

昭和52年度 奨学生募集

高校生、大学生の方で、奨学資金を希望される方は村教育委員会まで申し出て下さい。

高校生は月額一万一千円です

特別貸与奨学生（交通遺児）の方は、高校、高専、短大、大学生は月額一万一千円です。